

一 対象 小学校 中学年

二 主題名 相手の身になって考える

三 ねらい

相手の身になって考え、親切にしようとする豊かな心情を育てる。

(2) (2)

四 発達の段階と資料の特質

○ 小学校中学年の児童は、親しい友達が困っていたり、自分よりも小さい子どもがいたりすると、やさしく声をかけたり手をさし伸べたりすることができるようになってきている。しかし、一方で、困っている人が自分とあまり親しくない関係であったり、自分にとって都合のよくない状況であったりすると助けてあげることができずにいることが多い。そのため、この時期の児童に、困っている人の気持ちになって考え行動することの大切さを自覚させ、親切な行為を自ら進んで行うことの大切さに気付かせるようにしたい。

○ 本資料は、新燃岳の噴火によって避難所生活を送ることになった主人公が、人々のために働く父やお年寄りを気遣う高校生の姿を目の当たりにし、人との絆の大切さ、人を思いやる心、親切にすることの大切さについて改めて考えるところという内容である。主人公の心情の変化を感じることを通して、相手の身になって考え、親切にしようとする心情を育てることができる。

五 展開例

- 1 新燃岳噴火後の様子が分かる映像や資料を用いて思ったことを自由に話し合う。
- 2 資料「おばあちゃん はじめまして」を読んで、話し合う。
 - (1) 出かけていこうとする父を見ながら「ふうん。」とつぶやいたゆみこはどんな気持ちだったでしょう。
 - (2) 高校生の話を聞いたゆみこはどんなことを考えたでしょう。
 - (3) ゆみこは、どんな気持ちでおばあちゃんに声をかけたでしょう。
- 3 心のノート「思いやりの心をさがそう・身につけよう人の心を感じる力」のページを活用し、相手の気持ちを考えて親切にした経験を話し合う。
- 4 本時のねらいにかかわる教師の説話を聞く。

六 指導上の留意点

- 新燃岳噴火の恐ろしさのマイナス面が強調されるのではなく、噴火後にたくさんの方々の方々の支えがあったことのプラス面に触れるようにした展開を考えるようにする。
- 補助的な人物の行動や言葉などをもとに、役割演技や動作化などを通して、主人公の心情の追体験が深められるようにするとともに、補助発問を通して、価値観が高められるようにする。

七 参考資料等

- 「新燃岳噴火 百人の記録」(高原町教育委員会)を参考にし、てストーリーを構成した。